

## ■サカタのタネ・パンジー品種『虹色スマレ with Licca』シリーズの概要

パンジー栽培の歴史は17世紀からといわれ、品種育成は19世紀初頭、英国貴族の庭師によって始まりました。その後、特にフランスとドイツで、人為的な種間交配を含む複雑な交配により、あらゆる花色に加え花形、花の大きさなどの変化に富んだ品種が生まれました。一方、本家英国では、挿し木による栄養繁殖によってさまざまな品種がひっそりと保たれてきました。これは、ある特定の花色は種子を通して次の世代に伝えることができなかったことによります。

その後、同じ特徴や性質を種子で伝えることのできる方法（種子繁殖）では、固定種から、ハイブリッド（一代交配）品種に発展します。サカタのタネでは、当社の育種技術を駆使し、栄養繁殖品種でしか維持できなかった特徴的な花色の遺伝子を、種子繁殖品種へ封じ込め、維持できるようにし、そして完成したパンジーが『虹色スマレ with Licca』です。

『虹色スマレ with Licca』は、壮大なパンジー品種の育成の歴史の中で複雑に生まれた貴重な遺伝子をもとに、パンジー界のオピニオンリーダーとしてのサカタのタネが、十数年の歳月を費やし育成した新シリーズです。同シリーズは花の中心部分の色が薄く、周囲へだんだんと色が濃く広がっていく、まるで光のスペクトルのような美しい花色です。

日本ではパンジーを古くから「三色スマレ（すみれ）」と呼んでいます。2004年に発表した『虹色スマレ with Licca』は、種子繁殖品種としては再現しにくい花色をひとつの品種として確立させたことから、それにちなみ「パンジー」とは呼ばず、あえて『虹色スマレ with Licca』と命名しました。『虹色スマレ with Licca』は、今までのパンジーでは考えられない色合いをもち、しかも日本の気候に適して、家庭でもつくりやすく、秋から開花する性質をもつハイブリッド（一代交配）品種です。『虹色スマレ with Licca』の販売にあたっては、花苗生産者へ「リカちゃん」をデザインした苗ラベルを販売し、すべての鉢につけていただくとともに、園芸専門店、生花店、ホームセンターなどへのイメージポスターや販促ツール配布、掲示などさまざまな展開を通し、積極的に拡販を支援しています。

なお、サカタのタネは、パンジーにおいて世界市場でトップシェアをもっております。